

本校ウエイトリフティング部が南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

編集局日誌

環境よりも大事なもの

鹿児島国体で重量挙げの取材を担当する。選手らの取り組みを知りたいとさつま町の薩摩中央高校ウエイトリフティング部を訪ねた。案内されたのは校舎裏手にある弓道場。射場に敷かれた畳の上にトレーニングマットとダンベルが置いてある。手作り感満載の場所だ。少年男子チームが練習をしていると聞き、正直驚いた。指導する金城

聖丸教諭によると、弓道部が休部となった2020年から使用している。夏は暑くて冬は寒い練習場だ。他校の練習場や大会会場に行く、環境の良さに選手の気分が上がるという。

県スポーツ協会の強化指導員として4月からさつま町に暮らす女子チーム2人も一緒に練習する。1人ではモチベーション維持は難しく、設備や環境より

報道部・上岡毅

も切磋琢磨する仲間の存在が大事だと金城教諭は力を込めた。

鹿児島は競技人口が少なく恵まれた環境とは言い難い。全校生徒173人の薩摩中央高校で同部員は10人。部員の多さから、県外の競技関係者からは大規模校だと思われるという。

厳しい中にも和気あいあいとし。チームの指導方針だ。国体本番まで5カ月を切った。これから弓道場に足を運ぶ回数が増えそうだ。

2023・5・10(水)